（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいスイッチ上峰			
○保護者評価実施期間	2025年　12月　16日	～	2025年　12月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	4名(66.7%)
○従業者評価実施期間	2025年　12月　26日	～	2026年　1月　10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8名	（回答者数）	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　1月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている。また事業所の設備等、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされている。	視覚的支援の充実を図り、ホワイトボードや掲示物を見たら、一日の流や活動内容などが理解出来る様にしている。また、SSTの一貫として感情の指標を示したり、興奮した際にカードにて意思表示(一人になりたいです、話がしたいです等)が出来るような仕組みも作っている。	定期的にミーティングを行い、環境についての見直しを行っていく。また、視覚的支援で溢れすぎないように配慮も行っていく。
2	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	日々のミーティングの中で、児童の情報について共通理解を深めると共に、定期的なモニタリングを行い、各児童に対する支援内容や必要教材の検討を行っている。共通認識を深める事で一貫した支援へと繋げている。	定期的なモニタリングや支援会議を行うことで支援の方向性を統一し、一貫した支援を提供できるようにしていく。SSTの方法についても学びを深めていく。(研修受講や勉強会を行う等)
3	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われている。	児童発達支援の時間に関しては、集団活動と個別活動(ワーク)を適宜組み合わせて取り入れている。サービス提供時間も長い為、特に個別ワークや専門的個別支援の充実を図っている。また、学級日に放課後等デイサービスと同じ時間を過ごす場合は、時間や環境を分け活動を行うようにしている。	集団活動と個別活動どちらとも、内容が固定化しないように日々プログラムの見直しや検討を行っていく。学級日は状況に応じてイベント活動自体をレベル分けし実施する等検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会を設ける事が出来ていない。	弊社グループ内の他事業所との交流は、運動会やそうめん流し、もちつき等季節のイベントで一緒に活動行っている。保育所や認定こども園、幼稚園等との交流については、利用時間及び内容について考えた場合、難しい部分があり実施に至っていない。	今後検討が必要である。まずは職員同士の交流を深める事から始め、実施に向けて少しずつでも動いていければいいなと感じる。
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加出来る研修の機会や情報提供等を行えていない。	悩みや課題等について相談がある場合は、送迎時や電話、口頭にてその都度対応しているが、専門的な知識での適切なアドバイスが出来ていない事もある。また、保護者向けの勉強会や交流の場も提供できていない。	ペアレントトレーニングについては、研修参加や勉強会などを行いながら、支援者全体の理解を深めていく必要がある。行政や他の支援機関など必要に応じて適切な支援機関を紹介し、家庭全体のサポートにつなげていく。また、保護者向け勉強会や交流の場作りも検討していく必要がある。
3	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により保護者同士で交流する機会を設ける事が出来ていない。きょうだい同士で交流する機会を設ける事が出来ていない。	事業所内のきょうだい間で交流する機会はある。保護者会等については事業所単体という形ではなく、グループ全体で検討している。時間・場の設定などで難しい部分があり、現在のところ実施できていない。(事業所単体だと駐車スペースがあまりないなどで実施困難である。)	実施に向けて具体的な検討を行っていく必要がある。またグループ全体での連携も必要である。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	みらいスイッチ上峰

公表日　令和8年　3月　6日

利用児童数　6名　　回収数　4名(66.7%)

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3			1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	4					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				4		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2			2		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	4					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	3			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3			1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	4					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4					
	29	事業所の支援に満足していますか。	4					

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	みらいスイッチ上峰

公表日 令和8年3月6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・広くて運動療育に適している。静と動の活動を分けることが出来る。 ・人数バランスを考慮している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・児童5人に対し職員1名だが、状況に応じて多めの配置をするように職員自身が意識している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・1階と2階で静と動の内容を分けて行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	・日々の掃除や消毒を行い衛生管理に努めている。 ・活動内容により1階と2階の使い分けを行っている。	・洗面台の掃除を強化する必要がある。 ・1階のおもちゃの配置は改善が必要と思われる。(種類や用途に分別する等)
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	8		・状況に応じて個別空間(2階など)を利用出来るようにしている。1階でもマットなどで個別の場所を区切る等配慮している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・意向調査やGoogle口コミも取り入れている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・朝礼・終礼で意見交換出来ている。 ・空き時間を用いて職員間で話をしている。 ・月に1回の管理者面談、月に2回の評価シートの入力を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	6		・今後の予定は未定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・内容が充実している。 ・年間研修や事業所単位の研修に参加している。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	8		・3つの柱を軸に支援を行っている。	・支援プログラムの作成・公表について知らなかったり、違う認識をしている職員も多い。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・職員間で意見を出し合い作成している。 ・アセスメントシートなどを用いて毎回要望を確認している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・職員間で意見を出し合い作成している。 ・作成前には職員間で話し合い検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・計画書作成後、職員間で読み合わせを行い計画に沿った支援ができるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	4	・保護者から標準化されたツールの検査結果を共有してもらう事はある。	・標準化されたツールは活用出来ていない。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・同じ活動でもアレンジを加えて固定化しない工夫をしている。 ・主・サブの話し合いや他者の意見を聞き検討を行っている。 ・運動、机上、食育など活動を分けている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・毎朝朝礼時に確認を行っている。 ・予定が変更してもその場で共有し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	8		・毎朝終礼時に確認を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・専門的支援実施後は職員間の共有や記録の質を高める為、成長ノートを作成している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・関係機関連携などの加算を取りつつ支援を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	・就学前に保育園や学校との話し合いの機会を設け、情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	・保育園での様子を確認し、担任の先生と支援の方向性の確認を行っている。またその状況を職員間で共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	2		・会議が実施されない児童もいる。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	3	5		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	・他会社放課後等デイサービスとの合同イベントに参加した。定期的に開催されている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3		・2月に懇談会実施予定。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	8			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	・子育てサポート加算や家族支援加算に基づき、定期的に保護者との面談や助言を行っている。また参観等もしてもらっている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6		・保護者からの要望もあり検討した結果、2月に保護者懇談会を実施予定。 ・きょうだい児が参加出来るものはまだ企画出来ていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・毎月のお便り、日々のInstagram投稿などの発信を行っている。 ・Google口コミも取り入れている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7		・駐車場の問題で事業所に招待する事が難しい。もし実施するのであれば、場所や方法の検討が必要である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		・年間研修の中にも組み込まれ、現場単位で訓練等も実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			・BCPマニュアルなどはあるが、実際に業務継続を想定した訓練はイメージ出来ておらず、実施出来ていない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6	2	・HUGを活用した連絡訓練を定期的に実施している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハットを共有したり、無ヒヤリハット継続日数などをホワイトボードに記載し、再発防止への意識を高めている。 ・他事業所であったヒヤリハットを互いに共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			